

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00465

研究課題名(和文)ヌーヴォー・ロマン以降の現代フランス文学史の構築 - 小説、詩、批評を中心に

研究課題名(英文)Constructing a History of Contemporary French Literature since the Nouveau Roman : Focusing on the Novel, Poetry, and Criticism

研究代表者

桑田 光平 (KUWADA, KOHEI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80570639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：具体的な作品分析によって、80年代以降の現代フランス語圏文学には以下のようないくつかの潮流があることが明らかになった。ヌーヴォー・ロマン的な前衛作品からの継承、外国語としてのフランス語を駆使しながら出身国の歴史や個人史を描くエクソフォニー(母国語の外にでた状態)の作品、歴史をフィクション化することで読み替える新しい歴史小説(アフリカ諸国の作家たちによる世界の勢力図を読み替える新しいポスト植民地主義文学も含む)、マイノリティの日常を淡々と描く伝記的フィクションあるいはルポルタージュスタイルの作品、など。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「現代文学」は歴史的価値が確定しないため、これまで研究対象として十分に考えられてこなかったが、21世紀に入り、フランスでは、同時代文学を研究対象にすることで、ますます多様化と複雑化がすすむ現代の社会や世界のあり方を理解しようとするアカデミックな動きが出てきた。本研究はそうした動きに倣すもので、とりわけ日本では80年代以降、包括的な視点から整理されてこなかった現代フランス語圏(フランスのみならず、フランス語を公用語とする国々)の文学状況に対して、一定の歴史的見取り図を与えることを試みた。

研究成果の概要(英文)：Through the analysis of novels and poems, we have demonstrated the following several trends in contemporary French-speaking literature since the 1980s : (1) Succession of avant-garde movements such as the Nouveau Roman (2) Exophonic writers (those who use French as a foreign language) who depict the history of their country of origin or their personal history (3) New historical fictions that re-interpret world history (including new post-colonial literature by African writers who attempt to redefine the current world power structure) (4) Biographical fictions or reportage-style works that depict the daily lives of minorities in a straightforward manner, etc.

研究分野：French literature

キーワード：現代フランス語圏文学

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、都市文化とは異なる「もうひとつの現代性(モデルニテ)」として、地中海を背景にした自然豊かな南部で育まれた文学や芸術を研究してきた。そして、そうした「モデルニテ」の再解釈を試みたこれまでの研究のなかで、かつてロラン・バルトが支持した前衛運動としての「ヌーヴォー・ロマン(新しい小説)」もまた、いわば「モデルニテ」の更新ないし再解釈だったのではないかと考えるに至った。では、そうした革新的な「モデルニテ」の再解釈が終わった後の現代文学、グローバリゼーションとソーシャル・メディアの発達を背景として、ますます多様化・複雑化する現代文学はどのような状況にあるのか。バルザック的な19世紀小説、ジョイスやカフカからの20世紀モダニズム小説と対峙し「新しい小説」をそれぞれに目指した作家たちの営みはしかし、その後、どのような帰結を迎えたのか。これらの問いが本研究の出発点にある。ヌーヴォー・ロマン以降の文学状況にかんする研究は極めて数が少ないものの、フランスではブリュノ・ブランクマンやドミニク・ヴィアールら現代文学を専門とする研究者が近年発言権を増しており、とりわけヴィアールが共著で2005年に刊行した『現在のフランス文学(*La littérature française au présent*)』は、現代文学の一大パノラマと言えるもので、本研究のひとつの発想源である。

2. 研究の目的

本研究は、ヌーヴォー・ロマン以後の、具体的には1980年代から現在までの文学を小説と詩を中心に可能な限り網羅的にとりあげてマッピングを行い、現代フランス文学史を構築することを第一の目的とする。より具体的にはミニユイ社から79年に刊行されたジャン・エシュノーズのデビュー作『グリニッジ子午線』をひとつの指標とし、それ以降の文学史を組み立てる。また、ヌーヴェル・クリティック以降の批評の流れを素描し、1980年代以降の文芸批評史の構築も目指す。この場合の歴史とは、単に年代順に作品や作家を並べることを意味しない。いくつかのテーマや手法などによって分類しながら系譜や系統を構築していくと同時に、それ以前の作品との関連も検討し、戦後文学からの連続性や断絶などを明らかにしていく。こうした作業を通して、徐々に現代文学の布置を明らかにしてゆく。

3. 研究の方法

『フィガロ』、『リベラシオン』、『ル・モンド』などの大手新聞、『マガジン・リテレール』、『ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール』、『Europe』、『クリティック』などの文芸雑誌・書評誌を調査し、80年代から現代までの詩、小説、批評の状況を捉える。また、文学賞受賞作をはじめ、可能なかぎり、現代の話題作、評価の高い作品を読み分析を行う。セルジー・ポントワーズ大学教授で現代小説・批評を専門とするクロード・コストや、同じく現代小説・現代詩を専門とするパリ第四大学教授クリスチアン・ドゥメなどに協力を仰ぎながら進めていく。とりわけ、フランス語を母語としない、あるいは、フランス語以外の言語との間で執筆を行なっている「エキソフォニー」の作家たちの作品、そして、旧植民地国の作家たちの作品を分析し、歴史的に位置づける。こうした調査・文献読解の作業と並行して、現代作家たちへ直接インタビューを行い、作家たちの考えや影響関係、作品の傾向などをより詳細に紹介・分析する。

4. 研究成果

コロナ禍のため、当初予定していた通りには海外出張あるいは海外からの招聘を実行することができなかったものの、最終年度にまとまった期間、フランスならびにフランス語圏アフリカ諸国（コンゴ共和国、セネガル、モロッコ）へ出張することができ、日本では知られていない作家たちにインタビューを行うことができた。その成果は雑誌『現代詩手帖』にて「声を集めて」と題する連載論考に発表している。そうしたフランス語圏の作家たちによる現代文学は、ヨーロッパ対アフリカ、あるいは旧宗主国対旧植民地という図式では捉えきれない（もちろんそれらは相変わらず無視できない図式として残り続けており、絶対に無視できない）グローバル化時代に特有のダイナミックをもっている。彼らの作品は、フランス文学から大きな影響を当然のごとく受けていると同時に、それらをパロディのようにして使いながら、それぞれの地域の問題を非常に現代的な視点から扱っている。たんなる土着主義・地域主義でも、たんなるヨーロッパへの抵抗でもない、ハイブリッドで新しい作品が作られていることが理解できた。

当初の目的であった現代フランス語圏文学史の構築というまでには至らなかったものの、1980年代以降のフランス語圏文学史の大きな見取り図は得ることができた。ヌーヴォー・ロマン的な前衛作品やヌーヴォー・クリティークの前衛理論からの継承、外国語としてのフランス語を駆使しながら出身国の歴史や個人史を描くエクソフォニー（母国語の外にでた状態）の作家の作品群、歴史をフィクション化することで読み替える新しい歴史小説（アフリカ諸国の作家たちによる世界の勢力図を読み替える新しいポスト植民地主義文学も含む）、マイノリティであることの日常を淡々と描く伝記的フィクション、などが大きな傾向として挙げられる。こうした見取り図のもと、今後より精緻な現代フランス語圏文学史の構築をめざして研究を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 65(9)
2. 論文標題 声を集めて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 126-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 65(10)
2. 論文標題 和解の詩 アラン・マバンク 上	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 65(11)
2. 論文標題 ワタリドリ之歌 アラン・マバンク 下	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 祖国について語る者 ジャン＝バティスト・タチ・ルタールとチカヤ・ウ・タムシ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 130-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 66(2)
2. 論文標題 ブラザビルの憂鬱 エムロード・クカ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 110-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 66(3)
2. 論文標題 マラケシュの夜 アブデルガニ・フェナンヌ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 136-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 55
2. 論文標題 酩酊するエクリチュール - アラン・マバンク 『割れたグラス』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏語仏文学研究	6. 最初と最後の頁 339-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 17
2. 論文標題 準備としての人生、あるいは再制作	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コメント通信	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 -
2. 論文標題 フランス文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ブリタニカ国際年鑑	6. 最初と最後の頁 216-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 -
2. 論文標題 海外文学・文化回顧 2021フランス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei KUWADA	4. 巻 6
2. 論文標題 Presentation : De quoi notre litterature est-elle contemporaine ?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Littera	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 5
2. 論文標題 芸術家とモデルーージェイムズ・ロードとジャック・デュパン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Art Trace Press	6. 最初と最後の頁 212-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kohei KUWADA
2. 発表標題 Couleur de l'écriture : Barthes avec Duras
3. 学会等名 国際シンポジウム「Roland Barthes et la question de l'homosexualité」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 桑田光平
2. 発表標題 パリに終わりはないのか En quete d'une ville（都市を求めて / 都市の調査）
3. 学会等名 シンポジウム『テキストを建てる、イメージを歩く』、科学研究費補助金（基盤研究C）研究課題「啓蒙主義時代から19世紀前半までのフランスにおける建築図面・図表の思想史的意義」（研究代表者：小澤京子）主催（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 パスカル・キニャール	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 275
3. 書名 もっとも猥雑なもの	

1. 著者名 ロラン・バルト	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 423
3. 書名 バルザックの『サラジーヌ』について	

1. 著者名 クロード・コスト	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 307
3. 書名 バルトの愚かさ	

1. 著者名 Fabien Arribert-Narce, Fuhito Endo, Kamila Pawlikowska	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 170
3. 書名 The Pleasure in/of the Text: About the Joys and Perversities of Reading (Kohei Kuwada <Pleasure and Fatigue of the Barthesian Text>)	

1. 著者名 パスカル・キニャール	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 227
3. 書名 ダンスの起源	

1. 著者名 ロラン・バルト	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 565
3. 書名 恋愛のディスクール	

1. 著者名 ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 248
3. 書名 受肉した絵画	

1. 著者名 ジェラルド・マセ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 290
3. 書名 つれづれ草	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	カペル マチュー (CAPEL Mathieu) (70896414)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	2020年9月17日〜2022年3月31日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	カペル マチュー (CAPEL Mathieu)		
研究 協力者	ドゥヴォス パトリック (DE VOS Patrick)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	コスト クロード (COSTE Claude)		
研究協力者	ブーラービ リダ (Boulaabi Ridha)		
研究協力者	ドゥメ クリスチャン (DOUMET Christian)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	コンゴ共和国	マリアン・ングアピ大学		
フランス	グルノーブル・アルプ大学	セルジー・ポントワーズ大学	ソルボンヌ大学	他1機関
モロッコ	カディ・アヤド大学			